



CSR Report 2017

UDトラックス株式会社

CSR Report 2017

編集方針

UDトラックスは、持続可能な社会の実現に向けて、当社が果たすべきCSR(企業の社会的責任)に対する考え方や取り組みをステークホルダーの皆様にご理解いただくために、「CSRレポート」を発刊しています。本2017年度版は、新型トラック「クオン」と小学生向け交通安全教室についての特集を設けるとともに、報告パートでは当社が重視する5つの活動テーマごとに取り組みを紹介しています。

報告対象範囲

UDトラックス株式会社を対象としていますが、一部項目では、UDトラックスブランドとしてボルボ・グループが展開している活動についても報告しています。

報告対象期間

2016年度(2016年1月1日~2016年12月31日)。ただし、一部、それ以前の経緯やデータ、2017年度の活動、将来の活動予定も報告しています。

発行年月

2017年11月

目次

トップメッセージ	02
UDトラックスについて	03
UDトラックスのCSR	05

特集1	07
-----	----

物流業界への貢献

新型「クオン」発表。



特集2	11
-----	----

コミュニティへの貢献

小学生向け 交通安全教室を開催。



CSR活動報告		
①: お客様満足の向上をめざして		15
②: ビジネスパートナーとの連携のために		20
③: 従業員の力を活かすために		21
④: 社会の一員として		23
⑤: 環境経営の推進に向けて		25
環境データ		29

ボルボ・グループについて	33
--------------	----

「時世の要求する自動車」を提供するというビジョンのもと ステークホルダーの皆様の課題解決を追究してまいります。

企業の社会的使命は、お客様をはじめとした多様なステークホルダーとともに継続的に成長し、その利益を新たな事業活動や地域社会に投資・還元しながら多くの人々と豊かさを分かち合うことにあります。

この使命を果たすために、UDトラックスは1935年の創立以来、「時世の要求する自動車」を提供するというビジョンのもと、常にお客様の声に耳を傾けながら、ステークホルダーの皆様の課題解決に通じる新たな製品・サービス並びにソリューションを追究し続けてきました。

また、事業の推進にあたっては、自らの活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、コンプライアンスやリスクマネジメント、コーポレートガバナンス、環境対応などを強化することで、持続可能な社会の実現に貢献することが重要と考えています。

こうした当社の考え方を象徴する製品が、2017年に発表の新大型トラック「クオン」です。安全性、環境性、生産性などお客様の経営課題の解決を視野に最先端の技術を取り入れた新型「クオン」は、持続可能な輸送ソリューションをめざすUDトラックスの革新の一つです。

このような革新的な製品をグローバルに提供するとともに、地域に根ざした企業であるために、事業所のある地域の子どもの対象とした交通安全教室や、高齢者を対象としたインターネット体験会などにも取り組んでいます。

さらに、環境対応も一層進めており、現行重量車燃費基準の目標達成年度である2015年度の実績が認められ、2016年度に目標達成という判定を得ることができました。

2015年、国連で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」では、17項の目標達成のためにイノベーションやステークホルダーとのパートナーシップといった取り組みが重視されています。また、同年にはCOP21(気候変動枠組条約締結国会議)で新たな国際枠組みとなる「パリ協定」が合意しました。

UDトラックスは、これら国際社会の要請を踏まえるとともに、これからも国内外のステークホルダーの皆様の良きパートナーとなるべく、ボルボ・グループの最先端のテクノロジーと、UDトラックスの経験・精巧な技術・現場力を融合させ、強みである製販一体の組織力を最大限に発揮する「ひとつのUD(=One UD)」として次の革新に挑戦してまいります。

UDトラックス株式会社
代表取締役社長

村上吉弘



Going the Extra Mile その一歩先へ。

UDトラックス株式会社は、80年以上にわたり商用車メーカーとしての歴史を歩んできました。

「時世の要求する自動車」を提供するという創業当時のビジョンは、今も変わらず私たちの事業活動に受け継がれています。

物流というインフラに携わる企業として、常に社会のニーズや物流現場の声に耳を傾け、

お客様の期待のさらに先をいく製品やサービスの提供に取り組んでいます。

現在は、UDトラックスブランドのトラックの製造・販売をはじめ、ボルボ・グループの一員として、

ボルボおよびボルボ・ペンタブランドの日本拠点としての機能を担っています。

UDトラックスの沿革

1935年	ディーゼルエンジン製造を目的とし、埼玉県川口市に日本ディーゼル工業(株)を創立	1975年	中型トラック「コンドル」誕生
1938年	当社初のディーゼルエンジン完成	1990年	低排出、快適・安全性を向上させた「ビッグサム」誕生
1939年	ディーゼルトラック1号車が完成 全行程3,000kmの試験走行を実施	1996年	中国に合弁会社「杭州東風日産ディーゼル自動車有限責任公司」を設立
1942年	鐘淵ディーゼル工業(株)に社名変更	2004年	フラッグシップ大型トラック「クオン」誕生
1946年	民生産業(株)に社名変更	2006年	ボルボ社が資本参加
1950年	民生ディーゼル工業(株)に社名変更	2010年	UDトラックス(株)に社名変更
1955年	オリジナルの「UDエンジン」誕生	2013年	新興国市場向け大型トラック「クエスター」誕生
1958年	日本初積載量10トン超え 新幹線の敷設などで活躍した「6TW型」誕生	2014年	販売会社UDトラックスジャパン(株)を合併 小型トラック「カゼット」誕生
1960年	日産ディーゼル工業(株)に社名変更	2015年	創立80周年を迎える
1962年	上尾工場の操業開始	2017年	新型「クオン」発表 新興国向け中型トラック「クローナー」、小型トラック「クワザー」誕生



会社概要 (2017年1月1日現在、従業員数を除く)

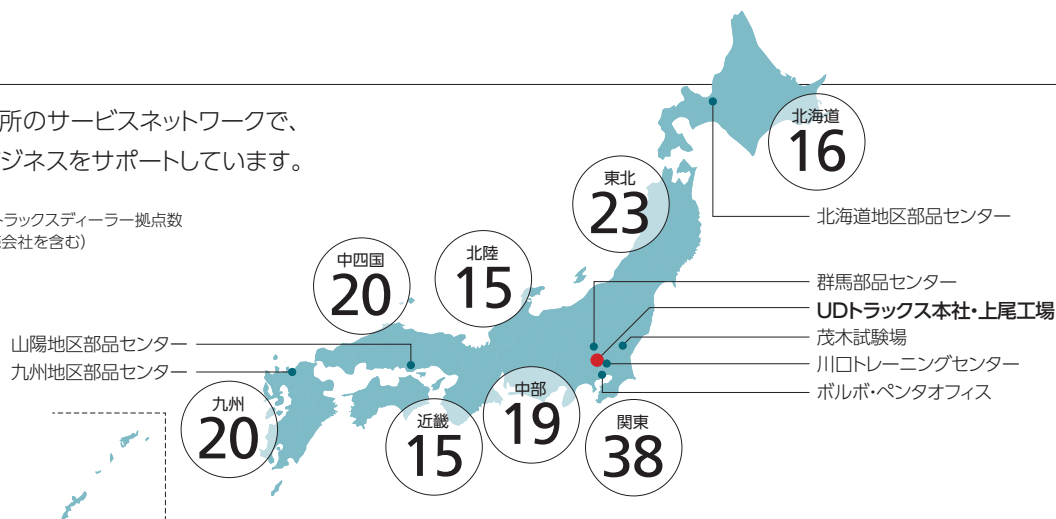
会社名	UDトラックス株式会社
創立	1935年12月1日
所在地	埼玉県上尾市大字吉丁目1番地
資本金	775億円
従業員数	6,307名(契約社員等および派遣社員を含む、2016年12月末日現在)
主な事業	UDトラックスブランドの大型・中型トラックの開発・製造・販売／UDトラックスブランドの小型トラックの販売／ディーゼルエンジンの製造・販売／自動車用部品の製造・販売／トラック・バスの整備および補修部品などの販売／ボルボおよびボルボ・ペンタブランド製品の輸入・販売
国内グループ会社	VFSジャパン株式会社、株式会社ニューメック、ボルボテクノロジー・ジャパン株式会社

役員	代表取締役会長 ヨアキム・ローゼンバーク	代表取締役社長 村上 吉弘
		
	取締役(非常勤) セスチン・レナード	監査役 藤井 範彰
		

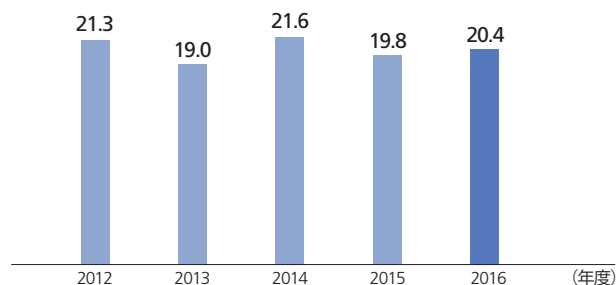
国内拠点

全国166カ所のサービスネットワークで、お客様のビジネスをサポートしています。

○ 各地域のUDトラックスディーラー拠点数
(独立資本販売会社を含む)



UDトラックスブランドの世界販売台数 (単位:千台)



UDトラックスブランドの市場別販売台数 (2016年度、工場出荷ベース 単位:台)

中南米	386
アジア	16,772
日本	10,661
東南アジア	4,211
南アジア	910
中東	990
オセアニア	1,030
アフリカ	2,231
合計	20,419

UDトラックス株式会社での取り扱いブランドおよび製品



UDトラックス
UDトラックスブランドの大型トラック「クオン」、中型トラック「コンドル」、小型トラック「カゼット」および新興国専用モデル「クエスター」「クローナー」「クワザー」を展開。



ボルボトラック
ボルボブランドの大型トラックの輸入・販売。日本市場における主な製品は、ボルボFH4×2、6×4トラクター。



ボルボ・ペンタ
ボルボ・ペンタブランドの船舶、産業用エンジンの輸入・販売。日本市場における主な製品はインボードおよびIPSマリンエンジン、発電機用エンジン。



ボルボ・コンストラクション・イクイップメント
ボルボブランドの建設機械の輸入・販売。日本市場における主な製品はホイールローダ、アーティキュレートダンプトラック。

ボルボ・グループとの一貫性を重視しながら、共有価値の創造をめざした活動を推進。

CSRに対する基本的な考え方

ボルボ・グループは、「輸送ソリューションを通じて豊かな社会づくりに貢献する」ことをグループの使命としています。CSR活動の推進にあたっては、その柱組みとなる「サステナビリティ・アプローチ」を2016年に改訂し、「バリューチェーンに関わる活動」「持続可能な輸送のための活動」「社会における役割を果たす活動」を3本の柱としながら「豊かな社会づくりに貢献する」ことによって、持続可能な社会の実現をめざしています。

また、国連グローバル・コンパクトやSDGs(持続可能な開発目標)などの国際的な行動規範や目標とともに、ス

テークホルダーとの対話を重視しています。

2015年国連総会において採択されたSDGsについては、17目標すべてを視野に入れつつ、目標3「すべての人に健康と福祉を」、目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」、目標11「住み続けられるまちづくりを」、目標13「気候変動に具体的な対策を」の4つを重点目標としています。

UDトラックスでは、これらのボルボ・グループの考え方を基盤としながら、当社の事業方針やブランド特性を踏まえ、専門性や人材、施設などの経営資源を活用し、ステークホルダーと当社双方への価値の創出に取り組んでいます。

サステナビリティ・アプローチ

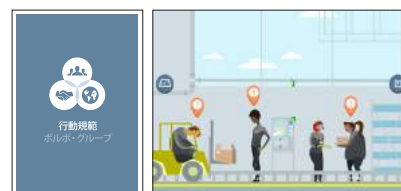


SDGsにおける重点目標



行動規範

「コンプライアンス」や「お客様満足」「サプライチェーンマネジメント」「人権・労働慣行」など、CSRを果たす上での基本的な原則や行動を「ボルボ・グループ行動規範」で定め、全従業員に履行を義務づけています。2016年は、行動規範のさらなる浸透を図るために新しいe-ラーニングを開発・実施しました。



ボルボ・グループ行動規範(左) e-ラーニングの画面(右)

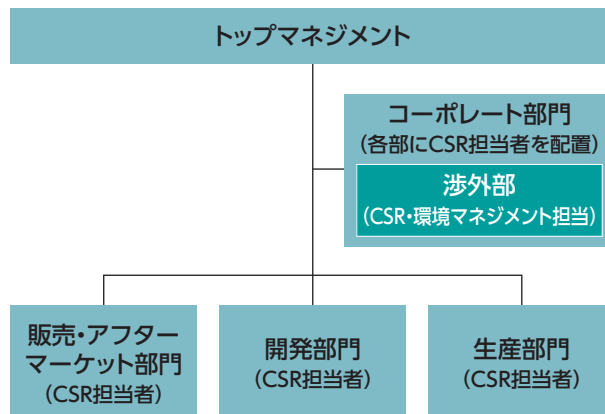


CSRマネジメント体制

国・地方の行政機関や業界団体との折衝などを担当する渉外部のCSR・環境マネジメント担当が、社内のさまざまな部門で取り組んでいるCSR活動に関する情報の集約やコーディネーション、会社全体としての取り組みの企画・推進などを担っています。

また、全社で方向性の一致した活動を展開していくために、各部門でCSR担当者を選任し、定例会議のなかで組織横断的な情報の共有や具体的な活動の企画・検討を行っています。さらに、トップマネジメント会議において取り組みの進捗を報告し、経営層の指示・判断、承認を受けています。

UDトラックスのCSRマネジメント体制



コンプライアンス

「ボルボ・グループ行動規範」に定められた不正防止や公正な競争、適切な税務、利益相反の禁止などの原則に則った事業活動に努めています。競争法や贈収賄防止法をはじめとする法規および関連するボルボ・グループの内規について、集合研修やe-ラーニングなど適宜必要な形でのコン

プライアンス教育を経営幹部を含む従業員に対して継続的に実施しています。また、コンプライアンス違反のおそれがある状況に適切に対応できるよう、内部通報制度や監査体制を社内に整備しています。

リスクマネジメント

「リスクマネジメント委員会」を設置して、リスクマネジメント管理体制の強化を図っています。対象となるのは、大規模自然災害や火災、感染症、情報漏洩、人事労務などの業務遂行上のリスクで、とくに大規模地震および火災を事業継続に影響を及ぼす重要なリスクと位置づけ、定期的な

リスク監査に基づく防火設備の強化、防災組織による定期的な訓練および対応計画の見直しなどを実施しています。また、ボルボ・グループの「セキュリティ・ポリシー」を反映したリスクマネジメント計画および事業継続計画の策定も進めています。

情報セキュリティ

ボルボ・グループの「セキュリティ・ポリシー」に基づき情報セキュリティの確保に努めています。またこのポリシーを反映した情報セキュリティガバナンスの構築を進めています。

具体的には、災害によるシステム停止を防止するために、本社と耐震性の高いデータセンターの2拠点で電子情報を運用・管理するとともに、外部攻撃などによる電子情報

の漏洩防止対策を強化しています。また、全国のディーラーを対象に情報セキュリティの強化に向けた教育を定期的に行っています。

これらとともに、UDトラックスはボルボ・グループの「プライバシーポリシー」に従い、個人情報の適正な管理・保護を徹底しています。



特集1 物流業界への貢献

新型「クオン」 発表。

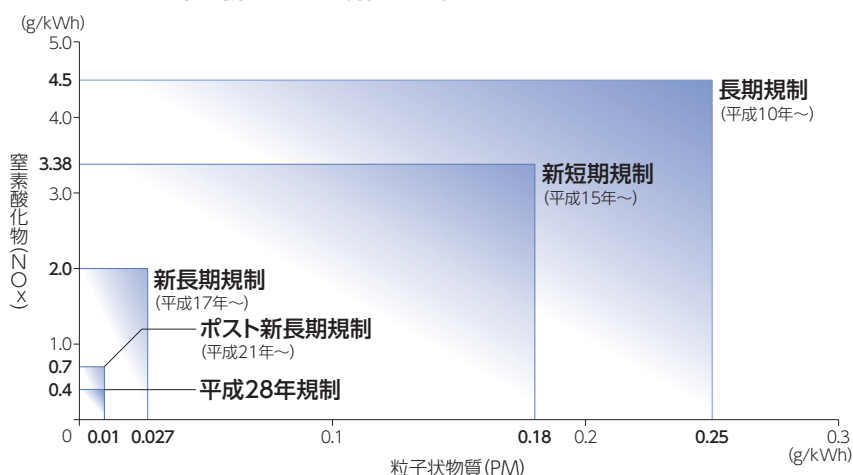


トラック輸送の サステナビリティ実現に 向けて求められる 環境、安全、 ドライバーへの 配慮



国内貨物の総輸送量のうち、トラック輸送はトンベースで約9割、トンキロベースでも約5割を占めています。物流業界では、わが国の経済・社会を支える重要インフラとしての使命を果たすために、強化が進む環境規制への対応や安全対策の高度化、トラックドライバーの労働環境改善に力を注いでいます。

ディーゼル重量車の排出ガス規制値の比較



資料：国土交通省自動車局、日本自動車会議所「数字でみる自動車 2017」

物流業界の課題に応える 新たなソリューション 「クオン」。



「人を想い、先を駆ける。」をコンセプトに

UDトラックスでは、2017年4月、新大型トラック「クオン」を発表しました。新型「クオン」は、最新の排出ガス規制に適合するだけでなく、物流業界のさまざまな課題の解決策となることをめざし、UDトラックスならではの革新を随所に盛り込み開発されました。

UDトラックスが考える「革新」とは、単なる技術的な目新しさではありません。物流の一翼を担う生産財メーカーとして、お客様・社会・環境に新たな価値をもたらす製品・サービスを提案し、広く世界に普及させていくこと——。世界に先駆けて採用した車間距離警報システム(トラフィック・アイ)、操作性と省燃費を両立する電子制御式トランスミッション「ESCOT(エスコット)」、世界初の尿素SCRシステムを搭載したフラッグシップ大型トラック「クオン」など、当社の歴史は、環境にやさしく、安全で、効率的で、持続可能な輸送ソリューションの進化をめざす歴史でもあります。

5つの基本性能を進化させた次世代トラック

新型「クオン」は、輸送ソリューションに求められる運転性能、燃費・環境性能、安全性、生産性、稼働率という5つの基本性能を大幅に進化させています。

快適で運転に集中できるコックピットや優れた操作性を誇る電子制御式オートマチックトランスミッション。クラス最高レベルの燃費・環境性能と力強さの両立。乗員と積荷を守ることに加えて、周囲の安全性も同時に確保する先進的な安全装備。高い荷役性・架装性、軽量化による生産性の向上。そして、各種アフターサービスの提供により稼働率の向上を支援します。

1 より使いやすく、よりスムーズに 運転性能



人間工学に基づいて操作性や視認性を根本から見直し、ドライバーの使い心地を追求してコックピットを刷新。ストレートシフトパターンを採用し、操作性がさらに進化した電子制御式トランスミッション「エスコット・シックス」や、優れた制動力を発揮するディスクブレーキなどの装備により、ドライバーに快適で運転に集中できる運転環境を提供します。

2 よりクリーンに、より力強く 燃費・環境性能



省燃費・パワフル・クリーンを実現する排気量11リッター「GH11エンジン」は、平成28年排出ガス規制に適合するとともに、全車平成27年度重量車燃費基準+5%を達成。低回転域から幅広い回転域で力強いトルクを発生させ、ゆとりある走りを実現します。さらにGPSを駆使した先読み機能と、省燃費運転アドバイス機能により省燃費運転をサポートします。

3 より安全に、より頼もしく 安全性



ミリ波レーダーとキャブ内に設置されたカメラで前方を二重監視するトラフィックアイブレーキ（衝突被害軽減ブレーキ）や、ドライバーアラートサポート（ふらつき注意喚起装置）をはじめ、先進のドライバーサポートシステムを搭載。また放熱性が高く、耐フェード性にも優れたディスクブレーキを採用しました。

お客様の課題

- 輸送効率、生産性の向上
- ドライバー不足への対応
- 労働環境の改善

地球環境の課題

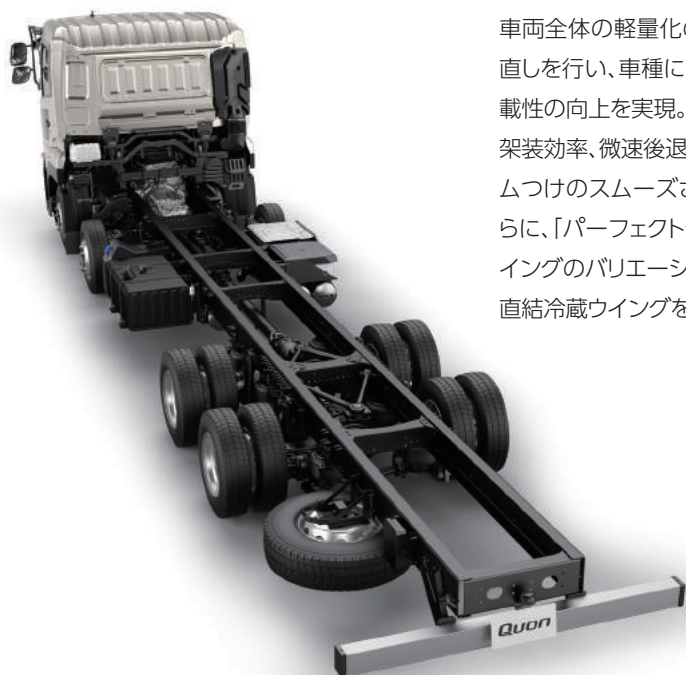
- 排出ガスの削減 (PM, NOx, CO₂)
- 騒音の低減

モビリティ社会の課題

- 安全対策の高度化
- 交通渋滞の緩和

新型クオン 5つの 進化

4 より多く、より効率的に 生産性



車両全体の軽量化のために各部品の見直しを行い、車種によっては200kgの積載性の向上を実現。また荷役性の向上や架装効率、微速後退によるプラットフォームつけのスムーズさも追求しました。さらに、「パーフェクトクオン」ではドライウイングのバリエーションを拡大したほか、直結冷蔵ウイングを設定しました。

5 より長く、より安心に 稼働率



新型「クオン」は車両の信頼性と耐久性のさらなる向上を図っています。また定期交換部品の削減や純正部品のロングインターバル化など、メンテナンス性も追求しています。加えて整備や整備契約、最新のテレマティクスサービスなどを含む包括的なアフターサービスにより、車両を最良の状態で維持し、稼働率を最大化します。



商品企画担当者の声

お客様のビジネスの成功に貢献していきたい。

新型「クオン」の導入においては、2017年に新しい排出ガス規制が施行されることが決まっていたことから、まずはその規制をクリアすることが必須条件でした。また同時に、私たちは物流業界が必要としていることは何か、そしてグローバルな視野と知見をもつボルボ・グループの強みを活かせるUDトラックだからこそできることは何かを突き詰めていきました。その結果、見えてきたのが「人を想い、先を駆ける。」というコンセプトでした。

環境性能や生産性、効率性だけでなく、実際にハンドルを握るドライバーに「この車に乗りたい」「クオンで良かった」と思ってもらえるような車づくりをめざすことにしたのです。その代表例が、さらに進化したオートマチックトランスミッション「エスコット・シックス」や運転席のレイアウト、そして先進的な安全装備です。

今後は、日本だけでなく海外市場への展開も計画しています。新型「クオン」が、世界各地で一人でも多くのお客様のビジネスの成功に貢献できることを願っています。

商品企画担当 保泉 亜樹 (写真左)

開発担当者の声

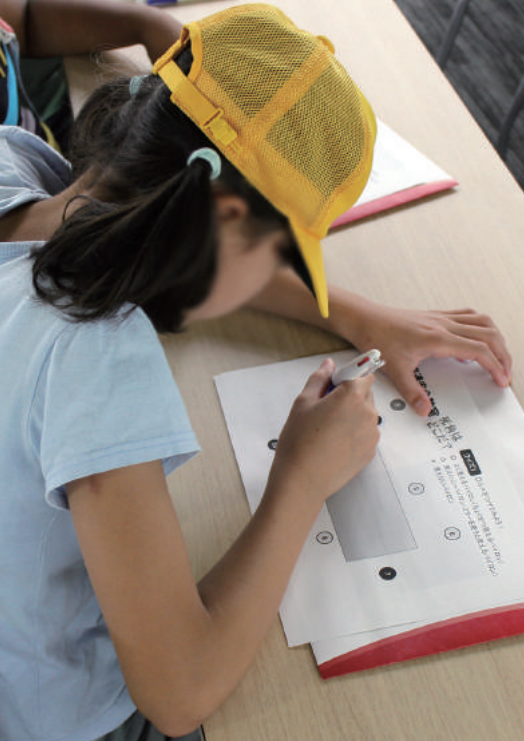
「品質」にこだわった新型クオンにご期待ください。

新型「クオン」の開発にあたっては、今まで以上に「品質」にこだわりました。そのため、およそ100台の試験車両で、厳しい諸条件のもと数100万kmに及ぶ走行試験を行い、安全性・走行性能・耐久性を確認しました。

その一つ、冬の路面状況を想定した寒冷地試験は、例年の北海道に加え、スウェーデンでも実施。極寒での始動性や排出ガスの後処理性能、滑りやすい路面での発進性や制動性能を確認、また、雪や水の凍りつきによる影響をシミュレーションしたほか、新機構や新開発のディスクブレーキの評価も行い、圧雪や凍結路面などの状況でも最大限の性能を発揮できるように作り込みました。

さらに、乗員の保護性能を評価する衝突試験や、キャブとシャーシの振動耐久性を測る台上耐久試験など、さまざまな試験を通じて検出された問題点を開発の現場に戻し、対策を講じ、さらに確認するというサイクルを何度も回しながら、最終製品が完成しました。今後もお客様の声に真摯に耳を傾け、さらに良い製品の開発につなげていきたいと考えています。

車両評価部 プロジェクト・資源管理担当 楯岡 晃 (写真右)



特集2 コミュニティへの貢献

小学生向け 交通安全教室 を開催。

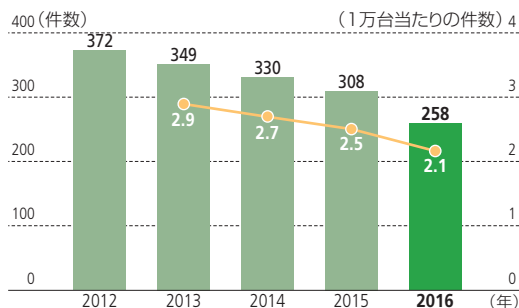


トラックによる 交通事故の防止に向けて 求められる 交通安全啓発 活動



WHO(世界保健機関)が2017年5月に発表したファクトシートによると、国際社会では毎年、約125万人が交通事故で死亡しています。わが国においては営業用トラックが関わるものを含め死亡事故件数は減少傾向にありますが、公益社団法人全日本トラック協会の目標値とはまだ隔たりがあり、交通安全の推進は社会全体の大きな課題の一つとなっています。とりわけ大型トラックによる事故は重大な結果を引き起こすケースも多い一方で、一般の人々が身近に知識を得られる機会は限られています。

営業用トラックによる死亡事故件数



1万台当たりの
件数は2.1で
目標値(2.0[※])を
上回っている

公益社団法人全日本トラック協会の統計データより作成。対象は、営業用トラックのうち軽自動車を除く。
※「事業用自動車総合安全プラン2009」当初目標値。

トラックに関わる交通事故ゼロをめざして、 体験型交通安全教育 プログラムを提供。



交通事故の主要原因と安全行動にアプローチ

埼玉県は営業用トラックによる死亡事故件数において、2013年は全国1位、2014年は3位、2015年は5位、2016年は1位と継続的にワースト上位に位置しています。*UDトラックスは、埼玉県に本拠を置くトラック製造企業としてこの状況の改善に少しでも貢献したいという思いから、子どもたちを対象とした交通安全教室を計画しました。

これは、主に大型トラックの周りで、安全のためにどのように行動すべきかを子どもたちに理解してもらうための取り組みで、ボルボ・グループのグローバルな交通安全キャンペーン「止まって、見て、手を挙げよう(Stop Look Wave)」とも連動しています。トラックの「死角」を知る、「内輪差」を知る、道路での「安全行動」を考えるという3つのポイントで体験を重視したプログラム構成となっています。

*公益社団法人全日本トラック協会の統計データより。対象は、営業用トラックのうち軽自動車を除く。

本社所在地である上尾市から活動を開始

2016年6月、上尾市教育委員会の協力のもと、上尾市内の小学校の4年生を対象に交通安全教室をスタートしました。当日は、実際のトラックを使用し、当社の従業員が講師や運営スタッフを務めました。

参加した小学生からは「運転席から見えないところがあった以上に多かった」「これからは交差点でトラックが曲がってくるのを待つ時、もっと後ろに下がるようにする」といった声が聞かれました。2016年は、4校の児童約440名を対象にプログラムを実施しました。また、2017年以降も継続的に開催する計画です。

小学生向け交通安全教室のプログラム

トラックの 死角 を知る・実感する

講師がトラックの大きさ、死角や内輪差について説明。その後、実際の大型トラックを使用して代表の児童が運転席に座り、ほかの子どもたちは車両の周りに立ち、運転席から誰が見えるか、見えないかを確認することで、車両周囲のどの位置が危険かを体験してもらいました。



トラックの 内輪差 を知る・実感する

交差点を再現した状況で実際のトラックを走行させ、左折時の巻き込みをデモンストレーションしながら、内輪差の危険性がどのようなものかを説明しました。後輪の軌道上に信号待ちする歩行者を想定した障害物を設置し、危険性をより実感してもらいました。



道路での 安全行動 を考える

プログラムの最後には、クイズ形式でトラックの死角と内輪差を復習するとともに、路上での安全な行動について皆で一緒に考えました。また、全児童が大型トラックの運転席に座り、実際のドライバーの視界を体験し、交通安全に対する理解を深めました。



ディーラー拠点でも 交通安全教室を開催

東北地域や横浜市などのディーラー拠点でも地元の子どもたちを対象に交通安全教室を実施しました。



山形カスタマーセンター



横浜カスタマーセンター

Topic

高齢者を対象としたインターネット体験会を実施

近年、日常的な情報の多くがインターネットで発信されるようになる一方で、ITツールに不慣れたシニア世代の方にとっては、かえって情報へのアクセスに限られるといった状況も生じています。

こうしたなか、UDトラックスは、上尾市教育委員会との共催で、地元の60歳以上の方を対象とした「インターネット体験会」を開催しています。参加者にはパソコンに初めて触れる方もいるため、無理なく、楽しく、かつ実用的なプログラムとなるよう努めています。

当社では、2012年から2014年までIT部門が単独で同様のプログラムを実施していましたが、2016年よりそれを会社全体の活動に拡大しました。受講者の方からは「よくわかった」「サポートが充実していた」などの声をいただいています。また、参加した従業員にとっても「初対面の人に、初めて学ぶことを、わかりやすく説明する」という実践を通じたコミュニケーションスキル向上の機会となっています。UDトラックスでは今後も定期的に体験会を開催していく予定です。





先生方からさまざまな評価をいただきました。
(アンケートの回答より)

児童の皆さんからのサンクスメッセージ

子どもの視点に立った内容で、わかりやすく、
しっかりと学習することができました。

「学んだことを活かしたい」と話す児童も多く、
有意義な時間でした。

講義、体験、振り返りと、
子どもたちの理解が十分定着しました。

安全指導の内容や方法をより良いものにしようと
教師の側の意識も新たになりました。

多くのスタッフの方が丁寧に対応してくれて、
安心して児童を参加させることができました。

実体験を通じて学べるプログラムだったので、
子どもたちの行動も変化すると思います。

運営スタッフとして参加した従業員の声

交通弱者である子どもたちの学びに貢献したい。

当日の子どもたちの真剣な眼差しと取り組み姿勢を見て、大型トラックの死角、内輪差を十分に理解してくれたと思いました。業務ではトラックの安全運転支援システムの開発に携わり、ドライバーの安全運転をサポートしています。交通事故は、道路利用者すべてがお互いに注意することで、発生件数を減らすことができると考えています。この交通安全教室で交通弱者である子どもたちの学びのお手伝いができることに自分自身もやりがいを感じており、結果として交通事故件数の削減に少しでも役立てれば嬉しく思います。



車両開発 電子電装部 電子設計・システム設計担当 廣田 雄一

お客様満足の上をめざして



お客様満足の上をめざすために、UDトラックはお客様や社会の潜在的なニーズの把握に努め商品に反映するとともに、さまざまなイベントやコミュニケーションを通じて有益な情報の発信に取り組んでいます。

お客様満足の上をめざす基本的な考え方

お客様や社会のニーズに応える製品やサービスを提供

UDトラックは、創業者である安達堅造の「時世の要求する自動車」を提供する、という言葉が事業の礎としています。

そのために、現在だけでなく将来までを見越してお客様や社会の課題を理解し、常にニーズに応える製品やサービスの提供に努めています。耐久性と信頼性に優れた高品質な製品の導入、社会の要請に応える先進的な安全技術の採用、そして製品を実際に使用されるお客様へのサポートなどを通じて、お客様満足の上をめざしています。

品質の確保・向上

品質マネジメント方針

すべての事業活動で品質を追求

優れた品質を備えた製品・サービスによってお客様に高い満足度を提供し続けることは、製造業としての社会的責任の一つです。当社では、「お客様重視」から始まるボルボ・グループの品質方針に則り、開発から生産、販売、アフターマーケットに至るすべての事業活動で、品質の確保・向上に取り組んでいます。

品質マネジメントシステム

ISO9001 認証を取得

UDトラックでは品質マネジメントシステムの国際的な認証であるISO9001を導入しています。生産部門では、2002年度に、開発部門では2016年度にISO9001を取得しました。

PDCA(Plan 計画→Do 実行→Check 評価→Act 改善)のサイクルを回していくことで、継続的に改善を進め、品質の上をにつなげています。

主な取り組み

開発部門

グループ共通プロセスで品質を管理

開発部門では、ボルボ・グループ内での横断的なプロジェクトによる製品開発においても高い品質を確保するために、ボルボ・グループ共通のプロセスを取り入れています。そして、開発段階ごとにチェックポイントを設定し、性能・機能・耐久信頼性など各品質項目の目標達成状況を確認しています。このプロセスの導入により、品質の上をと同時に開発期間の短縮も実現しました。

生産部門

UDトラック独自の品質管理手法で品質を上

生産部門では、UDトラック独自の管理手法を導入し、定められたプロセスに従って部品のデリバリーや製造過程での生産・品質不具合を日々確認しながら、目標とする品質レベルの達成に向けた活動をしています。より一層の改善を求めたUDトラックの品質管理手法は、ボルボ・グループ内の各工場でも採用されています。

また、従業員の品質意識向上のため、毎年11月を「品質月間」と定め、部署ごとに工程の再確認、過去の不具合対策の実施状況などを確認し、さらなる技術レベルの改善を進めています。

アフターマーケット部門

アフターマーケット品質の上をに向けた多彩な取り組みを実施

お客様に日々安心してトラックを使用していただけるように、UDトラックは整備スタッフのスキルアップを柱にアフターマーケット品質の確保・向上に努めています。

お客様の稼働率上をを目的とした研修会

アフターマーケット部門では、2013年以降毎年、最新の製品品質と技術サポート案件を共有し、メカニックの知識を

強化する研修会「クオリティ・テクニカル・カンファレンス」を開催してきました。2016年からは、名称を「アップタイム・カンファレンス」と改め、お客様の車両の稼働率向上をより意識した内容としています。

2016年は、12月に名古屋で開催し、全国166のディーラー拠点からメカニックとパーツ担当者など約400名が参加しました。カンファレンスでは、エンジンや車両といったテーマごとの技術的な説明や、メカニックのリーダーを対象とした品質課題の管理プロセスについての講義などのほか、スタッフどうしのチームワークの構築を目的としたワークショップなども実施しました。さらに、開発部門や生産部門の従業員からもアフターマーケットと関係の深い業務についてプレゼンテーションし、部門を越えてお客様の稼働率向上という目標と知識を共有する機会になりました。



世界規模のアフターマーケット技能向上イベント

国内外のUDトラックのディーラーでアフターマーケット業務に携わる従業員のスキルアップを目的に、技能コンテスト「UD現場チャレンジ」を開催しています。第2回大会となった2016年は、国別の予選ラウンドを経て代表となったチームが、11月に本社で開催した決勝大会に進出しました。日本からは127チーム中4チームが決勝大会への出場権を得ました。

決勝大会では、日本のほか、台湾、タイ、インドネシア、シンガポール、南アフリカから計11チームが、大型トラック「クオン」と「クエスター」の2カテゴリーに分かれ、実際の現場さながらの会場で技能を競いました。結果は、インドネシアのチームが1位、日本の横浜カスタマーセンターチームが2位、タイのチームが3位となりました。

UDトラックスでは、当コンテストの継続的な開催を通

じて、お客様への優れたサービスの提供に取り組んでいます。



現場での整備品質向上の取り組み

ディーラー各拠点での再整備を防止するために、アフターマーケット部門では、支社の整備工場担当者が毎月、再整備の要因を分析してアフターマーケット本部に報告しています。その際、重要度の高い再整備については、拠点内で対策会議を開催し、改善策を検討しています。改善策はアフターマーケット本部を通じて全国の拠点と共有し、同様の再整備の発生防止につなげています。

製品の品質に関する情報開示

速やかな情報開示を徹底

お客様の安全や環境に影響を及ぼす不具合が発生した場合には、国土交通省のガイドラインに基づき、速やかに情報を開示しています。

届出件数(各年1~12月)

	2014年		2015年		2016年	
	UDトラックス	ボルボトラック	UDトラックス	ボルボトラック	UDトラックス	ボルボトラック
リコール	5件	2件	4件	2件	4件	3件
改善対策	0件	0件	0件	1件	0件	2件
サービスキャンペーン	3件	0件	1件	1件	4件	6件

■ 製品における安全性の向上

安全マネジメント方針

安全な輸送ソリューションを提供する リーディングカンパニーをめざして

UDトラックスでは、自社製品に起因する事故をゼロにする、というボルボ・グループの安全方針に則り、安全性向上の継続的な取り組みを行っています。お客様の製品の使用方法に関する知見を深め、安全性に関して起こりうる問題を体系的に検証しながら製品やサービスを開発しています。また、お客様や対象市場のニーズ、交通インフラなどに適した安全機能を備えた製品・サービスの提供に努めています。

主な取り組み

環境・安全技術連絡会

確実な情報の共有化で 製品の安全性を確認

製品の開発にあたっては、ボルボ・グループの安全方針に基づきながら、各国の法規制、地域や業界の自主規制を遵守することを基本としています。

新型「クオン」の主な安全装備

アクティブセーフティ 危険を予測し、ドライバーをサポート

● トラフィックアイブレーキ(衝突被害軽減ブレーキ)

ミリ波レーダーとカメラによる二重の監視機能により、前方車両の検知性能を大幅に向上しました。衝突リスクを検知すると、ドライバーに注意を喚起。衝突する可能性のある距離に車両が近づくと、同時にブレーキが自動で作動して衝突を回避、または被害を軽減します。2019年11月施行の衝突被害軽減ブレーキの性能要件強化(AEBS01シリーズ)に先行して採用。



● LDWS(車線逸脱警報装置)

車載カメラが左右の走行車線を検知し、車速60km/h以上で走行中にドライバーが意図せず走行車線から逸脱すると、警告灯とブザーで注意を促します。

この基本を徹底するために、将来のさまざまな法規制情報を社内共有のカレンダーで一元管理するとともに、毎月最新情報や動向を報告書として発信しています。さらに関係者による「環境・安全技術連絡会」を開催し、国内外の法規制の動向や業界のトレンド、新技術など、安全性に関わるさまざまな情報を共有しています。また、自社製品の開発に影響を及ぼす可能性のある情報については、先行開発、商品戦略などの部署の責任者が適宜製品化に向けた議論を行い、適切に判断するよう努めています。

安全技術の開発・活用

先進安全技術を導入

社会やお客様の安全性に対するニーズの高まりに応えるために、先進的な安全技術の開発と普及に取り組んでいます。

2017年4月に発表した大型トラック「クオン」には、ベーシックセーフティ、アクティブセーフティ、パッシブセーフティという3段階からなる安全システムを搭載しました。UDトラックスでは、ドライバーの安全運転をサポートすることに加えて、周囲の道路利用者の安全性も同時に確保することをめざしています。

ベーシックセーフティ 運転時の疲労軽減に貢献し、安全運行を支援

● ディスクブレーキ

貨物積載時の長い下り坂や、雨天時にも、安定した制動力を発揮します。

● EBS(電子制御ブレーキシステム)

ディスクブレーキ、ABS(アンチ・ロック・ブレーキシステム)、ASR(アンチ・スリップ・レギュレーション)の組み合わせにより、挙動を安定させます。

パッシブセーフティ 被害を最小限に抑える

● SAFES CABIN(セイフイス キャビン)

安全装備を組み込んだ高剛性キャブ(SAFES CABIN)により、万一の衝突の場合でもドライバーの安全性を向上。また、乗用車のドライバーの被害を軽減するためのFUPD/RUPD(車両前後部への突入防止システム)も装備しています。

安全運転講習会

お客様のニーズに沿った 実践的なプログラムを提供

トラックをより安全に運行していただくために、「安全運転講習会」を開催しています。

お客様の要望に応じて、「運輸安全マネジメント」「飲酒運転の危険性」「トラックの死角」「事故事例と防止策」「危険回避」「ヒューマンエラー」などの中からテーマを選定し、学んだ知識をすぐに実践できるよう、座学と実技を組み合わせたプログラムを提供しています。

講習会で用いるツールについても、効果を最大化するために、実際の事故車両に取り付けられていたドライブレコーダーで撮影された映像を使って、お客様に事故を疑似体験していただくなど、自分自身のこととして捉えられるよう工夫しています。

2016年は127回(2015年121回)実施し、3,415名(同3,901名)のお客様にご参加いただきました。

受講後にはアンケートを実施して講習会の内容や資料、講師、時間配分などについての評価を聞き、プログラムや資料の改善に役立てています。

お客様サポート

お客様サポートに対する基本的な考え方

有益な情報の提供と適切なサポートで お客様の生産性向上に貢献

UDトラックスの製品の価値は、お客様にご購入いただくその時だけでなく、ご購入後にどれほど生産性の向上に貢献できるかで決まります。お客様にとって有益な情報と適切なサポートを継続的に提供することによって、当社の製品やサービスをお客様のビジネスにより効果的にお役立ていただくことをめざしています。

主な取り組み

エコドライブ講習会

燃費向上とCO₂排出量の削減を支援

2007年から、ドライバーを対象にUDインフォメーションサービス(UDIS)*を活用した「エコドライブ講習会」を開催しています。講習会では、実際のトラックを使った運転操作や減速運転などの実技を通じて、省燃費運転につながる知識と技術の習得をめざしています。UDISによってギアチェンジや車速などの項目ごとに運転の評価ができるため、客観的にドライバーの運転の癖を把握し、燃費改善につなげることができます。

2016年は全国97カ所(2015年103カ所)で開催し、1,303名(同1,384名)のお客様に参加していただきました。受講後は燃費が平均で19%向上したとのデータが得られており、お客様の燃費向上とCO₂排出量の削減に貢献しています。

※車両に搭載されている多目的ディスプレイで車両1台ごとの位置情報や燃費情報、エンジンなどの車両コンディション情報(油圧、水温など)をリアルタイムに収集し、その情報を分析して燃費や稼働状況のレポートとして提供するUDトラックス独自のサービス。

UDエクストラマイルチャレンジ

トラックドライバーの 運転技術の向上に貢献

お客様にUDトラックスの製品とサービスを最大限に活用していただくことを目的に、運転技術競技会「UDエクストラマイルチャレンジ」を開催しています。この競技会には、運転技術と稼働率の向上、そしてコストの削減といった要素を盛り込み、ドライバーが参加することによって知識や技術が習得できるように工夫しています。

2016年は11月にUDトラックス本社において、「UDエクストラマイルチャレンジ2016」の最終戦を行いました。予選を勝ち抜いたタイ、インドネシア、マレーシア、南アフリカの4チームが、新興国向け大型トラック「クエスター」を使用して競い合い、マレーシアチームが総合優勝を果たしました。

優勝チームからは、「今回の結果は当社の他のドライ

バーの意欲向上にもつながります。参加しているドライバーだけでなく、当社にとっても良い機会となりました」といった声が届きました。

UDトラックスではこの競技会を通じて、安全運転への意識や仕事に対する意欲の高いドライバーの育成に取り組んでいます。



UDロードサポート

車両停止時の迅速な復旧をサポート

UDトラックスでは、2015年12月にUDロードサポート^{*}を導入しました。これは、予期せぬ車両停止の場合でも、当社で運営するコールセンターが24時間365日電話で対応し、迅速な復旧につなげるものです。専門のトレーニングを受けた従業員が、お客様から車両の状況や位置情報などを詳しくヒアリングした上で、適切な解決方法をご案内しています。また、メカニックの出動が必要と判断した場合は、お客様の車両に最も近いディーラーと連携し、直ちに出動の手配を行っています。さらに、メカニックの到着予定時刻をお客様にお知らせするとともに、修理完了後は修理内容などを報告するなど、受付から作業完了まで一貫してサポートしています。

これにより、予期せぬ車両停止にストレスを感じるドライバーに正確な情報をタイムリーにお伝えしながら、メカニックも復旧作業に集中できるため、さらに効率的な問題解決が可能になりました。

^{*}事前の登録が必要なサービス。詳しくは、最寄りのUDトラックスディーラーへお問い合わせください。

お客様相談室

お客様の声を商品の改善や事業活動に反映

お客様からのお問い合わせやご意見、ご要望にフリーコールで対応する「お客様相談室」を設置しています。想定されるお問い合わせごとにマニュアルを整備し、スムーズな対応に努めています。2016年5月には、車両の不具合に関するお問い合わせに、より迅速かつ適切に対応するため、社内フローを見直しました。

また、UDトラックスでは、お客様相談室に寄せられたお客様の声を関係部署と共有し、商品の改善や事業活動に反映しています。総受付件数は、2015年は5,384件、2016年は5,930件でした。

お客様向け情報誌

経営に役立つ話題やUDトラックスの情報を定期的に発信

UDトラックスは、お客様向け情報誌「ディーゼル・ニュース」と「Roads(ローズ)」を発行しています。「ディーゼル・ニュース」は、人材育成や労務管理、他社の成功事例など、お客様の経営に役立つ話題や専門的な情報などを掲載しています。「Roads」は、世界的な視点から、UDトラックスの活動や海外のお客様の声を紹介しています。

また、ボルボ・トラックでは、「ポ・ヴェーグ(スウェーデン語で「道の途中」の意)」を発行し、本国スウェーデンからの開発秘話や世界各地の使用事例などとともに、日本国内のお客様に向けた製品やサービスの情報などを発信しています。



ディーゼル・ニュース



ローズ

ビジネスパートナーとの連携のために



サプライヤーや独立資本の販売会社は、私たちのビジネスにおいて欠かすことのできない大切なパートナーです。ボルボ・グループの方針やお客様満足度の視点を重視しながら、より良い関係の構築をめざしています。

サプライヤーに対する基本的な考え方

CSRの実行プロセスとして調達を実施

原材料や設備、日常業務に必要なサービスや消耗品の購入など、サプライヤーはUDトラックスの事業活動で重要な役割を果たしています。世界中のサプライヤーと適正な関係を構築するために、当社はボルボ・グループの調達方針に則った調達活動を推進しています。

ボルボ・グループでは、調達活動をCSRを実行するプロセスの一つとして位置づけており、サプライチェーンにおける倫理意識の向上とリスクの管理を通じて「責任ある調達」を実践し、持続可能な社会の実現に貢献することをめざしています。サプライヤー各社へは、各国の法規制や「ボルボ・グループ行動規範」に含まれたルールの遵守、国連グローバル・コンパクトなどの国際的な規範の尊重、さらには環境負荷低減の観点からISO14001もしくはそれと同等の第三者機関による認証の取得をお願いしています。

また、すべての一次サプライヤーに同レベルの取り組みをお願いするとともに、二次、三次サプライヤーに対しても、一次サプライヤーを通じて調達方針を展開しています。

主な取り組み

サプライヤーに対するCSR調査

調達に関わる全部署で評価結果を活用

2016年11月、ボルボ・グループは、新しいCSR調査票を導入しました。これは、サプライヤーが直接システム上でCSRアセスメントに回答するもので、ほぼすべての自動車メーカーと共同で開発したため、回答結果を自動車業界で共有することができます。メーカーごとの回答が必要だった従来に比べ、サプライヤーの負担も軽減します。

ボルボ・グループでは、自動車関連・非自動車関連を問わず、すべてのサプライヤーにこの調査票を適用し、その評価結果をグループの調達プロセスに反映します。

紛争鉱物問題への対応

グローバルな重要課題として 取り組みを強化

先進国での需要が高いスズ、タンタル、タングステン、金といった鉱物資源は、主にアフリカの紛争地域で採掘されるため、当該地域からの調達が現地の武装勢力の資金調達源となり、結果として地域の紛争に加担することが世界的に危惧されています。ボルボ・グループでは、これら紛争鉱物問題への対応をグローバルなサプライチェーンマネジメントにおける重要課題と位置づけ、国際的な要請への対応を強化しています。

この一環として、ボルボ・グループでは、2016年に自社製品における紛争鉱物の使用の有無を確認するパイロットプロジェクトを実施しました。その結果、対象としたエンジンについて、該当鉱物の使用は認められませんでした。

独立資本の販売会社に対する基本的な考え方

お客様満足度の向上をめざすパートナー

UDトラックスは、自社直系ディーラーのほかに、独立系ディーラー6社32拠点と連携して製品やサービスをお客様にお届けしています。各社の地域に根ざした事業活動を尊重しながら、お客様満足度の向上を共通の目標として、直系ディーラーと同じ研修やイベントの機会を提供し、より高い技術や最新知識の習得を支援しています。

主な取り組み

技術講習

技術向上の機会を提供

アフターマーケットに関わるスタッフの技能向上を積極的にサポートしています。技術講習会「アップタイム・カンファレンス 2016」には、独立系ディーラーから20名が、またボルボ・グループの世界的なトレーニングイベント「VISTA(ビスタ)2015-2016」には12名が参加しました。

従業員の力を活かすために



グローバルな視点でビジネスを牽引する優秀な人材の雇用と育成、最適配置を実現するために、個人がもつ多様な強みを活かす人事制度の設計・運用や、フレキシブルな働き方を支援する取り組みを推進しています。

人材マネジメントに対する基本的な考え方

「グローバルでハイパフォーマンスな人材」を育成

UDトラックスは、日本国内にとどまらず世界的な視野をもって事業を推進するために、「グローバルでハイパフォーマンス」という人材像を掲げています。そして、優秀な人材を積極的に採用するとともに、体系的な人材育成システム、公正・公平な評価システムの構築に注力しています。

これら制度の設計や運用にあたっては、「個人の尊重」「自発性」「多様性・クロスファンクショナル」「チームワーク」「情熱・責任感」「オープンな対話」といった価値観を重視するとともに、従業員意識調査の結果などを踏まえ、各種の取り組みがUDトラックスらしい企業文化の構築や、一人ひとりの能力を最大限に発揮できる働きやすい職場づくりにつながるよう努めています。

主な取り組み

ダイバーシティ&インクルージョンマネジメント

ポリシーに則ったさまざまな活動を推進

ボルボ・グループの「ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)ポリシー」に基づき、人材の多様性を高め、個人が最大限に能力を発揮できる環境を築くことで、持続的な成長をめざしています。毎年実施している従業員意識調査では、主に性別・国籍・年齢でダイバーシティの度合いを、チームの一人として必要とされていると感じているかなどを問う質問でインクルージョンの浸透度を評価しています。

また、各部署から選出されたメンバーが企画するDICJ(Diversity & Inclusiveness Community Japan)や、女性従業員によるWIN(Women's Inclusive Network)などの活

ダイバーシティとは

性別、国籍、人種、年齢、性的指向、宗教、政治に対する信条、社会経済的地位、身体能力など、異なる背景や視点をもつ人々のこと。

インクルージョンとは

自身の存在を尊重され、評価されていると感じること。また、能力を最大限に発揮できるよう、周囲から一定の支援と関与を感じること。

動を通じて、従業員もD&Iの推進役として活躍しています。

2016年は、マネージャーを対象にした「ダイバーシティ・インクルーシブネス・リーダーシップトレーニング」に、227名(2015年57名)が参加しました。また、9月25日から10月1日の1週間、D&Iの啓発を目的に「D&Iウィーク」を開催しました。期間中は、従業員からダイバーシティを表現した写真を募るコンテストや、障がい者に関する講演、国による就業の違いに関するパネルディスカッションなどのイベントのほか、さまざまな部署や国籍の従業員の横断的な相互理解を促進する対話の場として「フィーカ*」を行いました。



*スウェーデンでティーブレイクを利用して行われるカジュアルな対話。多国籍従業員によるパネルディスカッション

人材採用・登用

個人の能力・企業戦略を踏まえた人材採用と女性従業員の活躍を推進

個々人の関心や志向、能力と、企業としての中長期戦略を踏まえて採用活動を実施しています。2016年度は、138名の新卒者、90名のキャリア保有者を採用しました。

また、女性従業員の活躍推進にも力を入れており、現在44名の女性管理職がさまざまな部署で活躍しています。さらに、従業員に公平に機会を提供するため、すべてのオープンポジションは、原則、社内公募制度の応募者から登用しています。

従業員数(各年12月末日現在)

性別	2015年		2016年	
	従業員数	比率	従業員数	比率
女性	464名	7.4%	800名	13.2%
男性	5,769名	92.6%	5,282名	86.8%
合計	6,233名	100.0%	6,082名	100.0%

国籍数(2016年): 24カ国

アイルランド、アメリカ、インド、インドネシア、オーストラリア、カナダ、スイス、スウェーデン、タイ、ドイツ、トルコ、ネパール、ブラジル、フランス、ベトナム、ペルー、ベルギー、マレーシア、ミャンマー、メキシコ、韓国、中国、南アフリカ、日本

人材育成

長期的な視点でキャリア形成をサポート

従業員のキャリア形成にあたっては、毎年のパフォーマンス

ンス評価の際に個人の育成計画について上司と部下が話し合いをもっています。また、後継者育成計画の策定・レビューを通じて、ミドルからシニアレベルまでの計画的な育成プログラムを実行しています。

研修においては、グローバルに標準化されたプログラムで構成される「ボルボ・グループ・ユニバーシティ」と、日本のビジネス環境に則った「ローカルトレーニング」を組み合わせることを基本に、階層別のリーダー育成研修、各事業部門が行うファンクション主体研修など、さまざまなプログラムを提供しています。

評価・処遇

年間目標を設定して半年ごとに進捗を確認

全従業員が毎年、年間目標を設定し、半年ごとに上司と進捗などを確認しています。また、個人の目標達成度をベースに、チームや全社の目標達成度などを加味した報酬制度を整備しています。

従業員意識調査

調査結果をもとにアクションプランを策定

従業員とのコミュニケーションや積極的な経営参画を推進するため、毎年従業員の意識調査を実施しています。

調査では、会社の価値観や目標、戦略に対する従業員の参画意識を、従業員であることの誇りや組織への満足度などで測り、スコアの低い項目についてはアクションプランを策定し、改善を図っています。

ワークライフバランス

活用しやすい仕組みづくりに注力

従業員が仕事とプライベートを効率的に両立できるよう、各種制度やポリシーを整え、ワークライフバランスの充実に支援しています。

個別の働き方を支援する主な制度・ポリシー

- 育児休職制度
- 介護休職制度
- ワーク・フロム・ホーム制度
(随時または期限付きの在宅勤務)
- コアタイムを設けないフレックスタイム制度
- 職場での尊厳に関するポリシー(ハラスメント防止策)

職場の安全と健康

安全な職場環境づくりを推進

従業員に安全な職場環境を提供することは企業としての基本的な責任だけでなく、事業の円滑な運営においても重要な要素です。ボルボ・グループの「従業員の理解と参画」「予防と促進のアプローチ」「実現性と実効性」という3つの考え方を柱に、安全な職場環境づくりに取り組んでいます。

生産工場における労働災害の防止

従業員の安全を最優先に生産活動を行っています。安全衛生委員会を通じて、従業員と安全や健康に関する情報を共有しているほか、日常業務で起きた事例を報告し合う機会を設けることで、従業員相互の注意喚起を図っています。

Topic

従業員の家族や地域との交流イベントを実施

2016年11月、労働組合と共同で、本社・上尾工場において従業員の家族や地域との交流イベント「コミュニケーション秋 2016」を実施しました。当日は、楽しみながらUDTトラックについて理解を深めてもらうために、展示ホールの見学やテストコースでの試乗、軽食の売店や戦隊ショーなど、さまざまなプログラムを用意しました。参加した子どもたちは、お父さんやお母さんの会社に興味津々の様子でした。従業員と家族、会社、そして地域コミュニティの一体感を感じることができる1日となりました。



社会の一員として



UDトラックの事業は、お客様やビジネスパートナーだけでなく、多くの人々によって支えられています。企業市民としての責任を果たし、社会との信頼関係を築くことを目標に社会貢献活動に取り組んでいます。

社会貢献活動に対する基本的な考え方

自社の経営資源を社会に還元

UDトラックのもつ専門性や人材、施設・設備、機能といった経営資源を活かして社会貢献活動に取り組んでいます。事業所を置く地域コミュニティや自動車関連業界など、さまざまなステークホルダーのニーズや課題に寄り添い、共に価値を生み出す活動を通じて、より良い関係を構築し、持続可能な社会の実現に寄与することをめざしています。

主な取り組み

自動車整備専門学校での技術トレーニング

将来の自動車業界を担う人材を育成

UDトラックでは、将来の自動車業界を支える優秀な人材を育成するため、自動車整備士をめざす若い世代に対してトラックの魅力を伝えながら、より実践的な知識の習得をサポートしています。

東北支社では、2011年から自動車整備専門学校での学生や教員を対象に、トラックの新技术に関するトレーニングやトラック整備工場の見学会を実施し、トラックやトラック整備に対する理解促進を図っています。2016年11月には、同年10月に工場をリニューアルした宮城県仙台カスタマーセンターに、花壇自動車大学のメカニックをめざす学生40名や教員を迎え、商用車の最新の整備・部品搬出設備を備えた新工場の見学会と、大型トラック「クオン」の構造を紹介する研修会を開催しました。同校では普通の授業でもディーゼルエンジンを扱っていますが、乗用車を中心のた



め、多くの学生にとってトラックやその部品に触れることは初めての体験でした。同支社のスタッフから説明を受けた学生たちは、トラックの部品や工具の大きさに驚きながらも、電子制御された最新大型トラックのエンジンやトランスミッションの構造や、工場の生産効率が整理整頓された作業環境や自動リフトなどの最新設備によって維持されていることを知り、トラックやトラック整備に対するイメージを新たにしました。研修会後のアンケートでは、「部品や工具が整理整頓されていてとても綺麗な工場だった」「大型車整備のイメージが180度変わった」などといった感想が寄せられました。

今後も、UDトラックは全国各地で整備学校への技術トレーニングや工場見学会を継続していく予定です。

会社訪問受け入れ

高校生に将来のキャリアを考える機会を提供

2016年2月、職業に対する理解を深めることを目的に、埼玉県立上尾高等学校の2年生96名を本社に迎えました。当日は、ボルボ・グループやUDトラックの企業活動について説明を行うとともに、女性2名、男性1名の若手エンジニアから現在取り組んでいる業務や職場での一日を紹介し、就業についての具体的なイメージづくりを支援しました。

上智大学との産学連携プログラム

グローバル人材の育成に貢献

ボルボ・グループは、国境を越えて活躍できるグローバル人材の育成のために、学生に対してさまざまな学びの機会を提供しています。その一環として、スウェーデンをはじめフランス、アメリカ、中国などの大学と提携し、「アカデミックパートナープログラム」を実施しています。

日本でも、2014年に上智大学と3年間のパートナーシップ契約を結びました。大学とUDトラックが協力して活動内容を企画し、これまでに具体的な課題を設定して行う4週

間のインターンシップや、学生が発案した研究プロジェクトへの奨学金支援、秋学期の正規の授業として当社の従業員が専門分野の講師を受けもつ「グローバルビジネス」講座などを実施しました。

また、2016年度からはボルボ・グループの海外拠点に約3カ月間にわたって学生を派遣するグローバルインターンシップを開始し、その参加者をアメリカに派遣しました。このパートナーシップはグローバル人材の育成に貢献すると同大学から評価されており、2017年4月から3年間、取り組みを延長することとしました。

災害復興支援

熊本地震被災地の復興に協力

2016年4月に熊本県を震源に発生した熊本地震では、2度にわたる震度7の揺れや余震回数の多さから、インフラや地域の経済活動だけでなく人的にも大きな被害が出ました。UDトラックスでは、日本赤十字社を通じて被災地に義援金500万円を送りました。

また、UDインフォメーションサービス(UDIS)を介して、テレマティクスが搭載されたトラックの位置情報を特定非営利活動法人ITS Japanに提供し、被災地支援における運行ルート情報として活用していただきました。当社では、災害発生時の物資の輸送ルート検討の一助になることをめざし、2014年からトラックの位置情報を提供しています。

- 参考** ●ITS Japanにおける災害対応一覧サイト
http://www.its-jp.org/katsudou2014/tabid_70/id70_1/
- ITS Japan 乗用車・トラック運行実績情報発信例
最新の災害についての対応事例が表示されます。
<http://disaster-system.its-jp.org/map4/map/>

作業服の提供

自社のユニフォームを自治体に提供

生産部門で作業服として使用しているユニフォームを統一するにあたり、在庫していた別デザインの作業服約5,000セット(上下)を、地元の上尾市と、東日本大震災の被災地である岩手県陸前高田市および福島県本宮市に提

供しました。各自治体では、日常作業で職員の方が着用し、有効利用していただいております。各市から感謝状等をいただきました。今後、埼玉県や工業高校にも提供する予定です。

また、その作業服を製作するため在庫していた生地やファスナーなどについても、上尾市内にある授産施設2カ所に提供しました。施設では、障がいのある方の社会参加活動の一環としてバッグなどの手工芸品を製作・販売しており、生地などはその材料として利用していただきました。



上尾シティマラソン・ハーフマラソン

地元企業として大会の成功を応援

毎年秋に開催される「上尾シティマラソン・上尾シティハーフマラソン」は、上尾市を代表するイベントとして長年市民から親しまれ、毎回8,000名を超えるランナーが参加しています。とくにハーフは、公益財団法人日本陸上競技連盟の公認大会として箱根駅伝常連校のトップランナーが多く出走することでも注目されています。

UDトラックスは、地元企業として2013年からこのマラソン大会に協賛し、その成功を応援しています。また、毎回1,600個のオリジナルネックウォーマーを子どもたちに配布しています。2016年11月20日の第29回大会には、80名の従業員もランナーとして参加しました。



環境経営の推進に向けて



UDトラックスは、ボルボ・グループのポリシーに沿った環境プログラムや環境管理・保全に関する中長期計画に基づき、製品の環境性能の向上と事業活動に伴う環境負荷の低減を推進し、持続可能な社会の実現をめざしています。

環境マネジメント方針

4つのプログラムで 持続可能な社会の実現に貢献

ボルボ・グループは「環境方針」を定め、長年にわたり環境対策に取り組んできました。

UDトラックスでもこの方針に則り、「全体的な視点」「継続的な改善」「技術開発」「資源の利用効率向上」の4つからなる環境プログラムを推進し、持続可能な社会の実現をめざしています。

環境プログラム

全体的な視点

製品ライフサイクル全体を考慮し、製品・業務・サービスが環境に及ぼす影響を低減する取り組み

継続的な改善

従業員が主体となって、それぞれの業務のなかで必然的・継続的に推進する取り組み

技術開発

お客様や社会からの要請・期待を上回る、自発的・先駆的な研究開発

資源の利用効率向上

天然資源の消費削減や廃棄物の発生抑制につながる取り組み

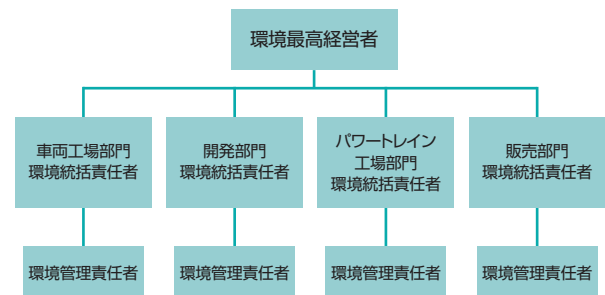
環境マネジメント体制

「環境マネジメント組織」で 全社の環境計画を策定

UDトラックスは、社長を環境最高経営者とし、各部署の環境統括責任者などで構成する「環境マネジメント組織」を設置しています。この組織は全社の環境管理・保全に関する中長期計画の策定や重要事項の審議・承認などの機能を担っています。

各環境統括責任者の下には、環境管理責任者と管理・実行組織を設置し、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001や社内の環境計画に基づいた環境活動を推進しています。

環境マネジメント体制



ISO14001 認証の取得

各部門・拠点を一つのサイトとして 環境マネジメントシステムを運用

UDトラックスは、ISO14001の認証を取得しています。1998年度に本社・上尾工場が取得後、2009年度までに開発部門などで順次取得を完了しました。

現在は、開発部門、生産部門はボルボ・グループの事業部署として、本社部門、営業部門は一つのサイトとして環境マネジメントシステムを運用することで、環境活動計画で定めた目的・目標の達成をめざしています。



ISO14001 認証

環境マネジメントシステムに対する内部監査／外部審査

運用状況や有効性を定期的に確認

環境マネジメントシステムが適切に機能していることをチェックするために、社内規定に基づく内部監査を毎年定期的実施しています。監査では、内部監査資格をもつ委員で構成する監査チームが、環境マネジメントシステムの運用状況、社内基準、環境関連法規制の遵守状況などを確認・評価しています。

また、外部機関による環境マネジメントシステムの審査も毎年受審しています。2016年度の外部機関の審査では重大な指摘はありませんでした。

事業活動に伴う環境影響

製品ライフサイクルの全段階で 資源の有効利用と環境負荷低減を推進

UDトラックスは、開発・設計から廃棄・リサイクルまで製品ライフサイクルのすべての段階で環境負荷分析を行い、環境に配慮した製品を提供するとともに、資源の有効利用と環境負荷の低減に取り組んでいます。

製品環境性能の向上

環境性能の向上につながる 技術の開発に注力

UDトラックスは、燃料消費を抑制する技術や排出ガスをクリーン化する技術の開発、環境負荷物質管理の徹底などを通じて、総合的な環境保護に努めています。

省エネルギー・地球温暖化防止

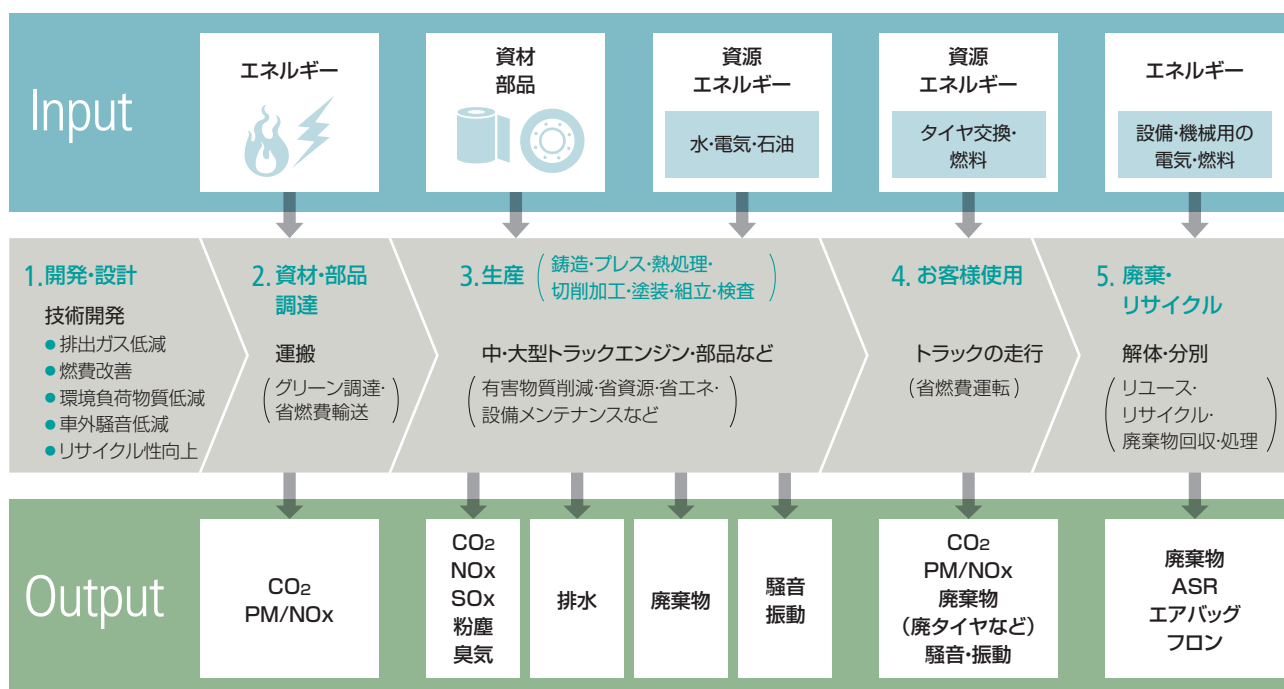
燃料消費を抑制する技術を開発

トラックの燃料消費は、事業者にとって経営上の大きな負担となるだけでなく、CO₂排出の主な要因ともなります。

そこで、UDトラックスでは燃料消費の抑制を環境活動における最大の課題と位置づけ、長年にわたって着実に改善を図ってきました。国内では各メーカーが2015(平成27)年度に達成すべき「平成27年度重量車燃費基準」が施行され、車両重量などのカテゴリーごとに目標燃費値が設定されています。2016年度販売実績において、目標燃費を達成した車両台数は販売台数の97%を超え、平均燃費値においては2012年以降企業目標を達成しています。

また、車両の燃費改善とともに、トラックドライバーに省燃費運転につながる知識と技術をレクチャーする「エコドライブ講習会」を全国各地で継続的に実施しています。

マテリアルフロー



トラックのライフサイクルでの環境負荷は、ほとんどが使用中に発生するCO₂と排出ガス(PM・NO_x)です。

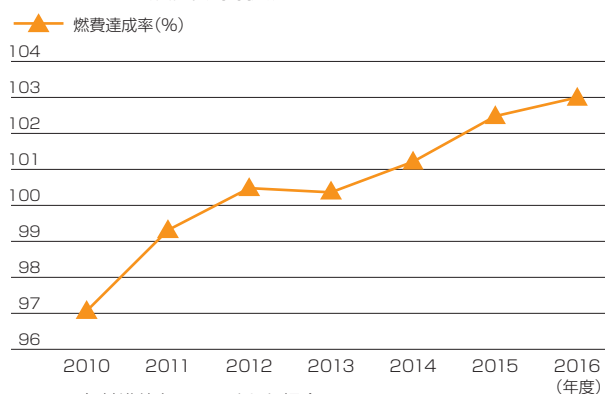
燃費改善技術

エンジンやトランスミッションなど駆動系の性能向上、走行状態のきめ細かな制御など、燃費を改善するさまざまな先進技術を積極的に搭載することにより、大型トラック「クオン」の主要車型の約7割において「平成27年度重量車燃費基準」の目標値に対して105%以上を達成しました。

大型トラックに採用している主な技術

車両	<ul style="list-style-type: none"> ● 燃費コーチ(省燃費運転をガイド) ● フォアトラック(道路勾配を記憶し先読み制御) ● 空気抵抗の低減(エアダム一体型フロントバンパー、新デザインの導風板など)
エンジン	<ul style="list-style-type: none"> ● 燃料噴射システムの変更 ● 燃焼室(ピストン)の形状変更 ● 吸気系の形状変更 ● 可変速のウォーターポンプの採用
駆動系	<ul style="list-style-type: none"> ● ESCOTロール(惰力走行時の速度低下制御) ● アクセラレーションリミッター(急激なアクセル操作の抑制) ● ソフトクルーズ(加速制御)

UDトラックス燃費改善状況



※2015年基準値を100%とした場合の
中型・大型トラック総販売台数による加重調和平均。

化学物質の管理

製品に含まれる化学物質の管理を徹底

化学物質の製造・輸入・管理、環境配慮設計、リサイクルなどに関する法規制や産業界の自主基準の遵守を前提に、自動車業界の統一化学物質リスト(GADSL)に基づき、製品に含有される化学物質の管理に努めています。

化学物質管理の取り組み

開発・設計段階

- 各工程でサプライヤーを含めた化学物質の使用状況を確認
- 必要に応じてIMDS^{※1}へ情報を登録

生産段階

- PRTR制度^{※2}に基づき毎年届出・報告を実施
- 社内基準として運用し有害物質代替活動を推進
- 法律の改正に対しても適切に対応

※1 世界各国の自動車メーカーが環境保全を目的に共同で運営している材料データベース。

※2 特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律。

事業活動に伴う環境負荷の低減

省エネルギー・地球温暖化防止や 廃棄物削減に注力

UDトラックスは、省エネルギーアイテムの発掘や優良活動の水平展開などによるCO₂排出量の削減、ディーラーと一体で取り組む廃棄物削減をはじめ、工場緑地の拡大、環境リスクの低減などを積極的に進めています。

省エネルギー・地球温暖化防止

全社でCO₂排出量の削減活動を推進

ボルボグループは、2011年にWWFの「クライメートセイバーズ・プログラム[※]」に自動車メーカーとして初めて参加し、グループの生産工場から排出するCO₂量を2014年までに2008年比12%削減する目標を掲げていましたが、2013年に目標を大きく上回る20%の削減を達成しました。

この結果を受け2015年からは、2020年までに2013年比で8%削減する目標を新たに掲げ活動を加速させています。UDトラックスもこの削減目標達成に向け、各部門の代表者で構成する「省エネルギー推進会議」などにおいて、具体的な活動項目やアクションプランを検討しています。

またUDトラックスでは、「2013年度のCO₂排出量については1990年度比39%の削減」という目標を掲げ、その

成果として当初目標を大きく上回る60.7%の削減に成功しました。現在は、生産量の増加に伴う排出量を含め、2020年目標の達成に向けて削減を進めています。

※WWFと企業のパートナーシップで温室効果ガス削減を進めるプログラム。



廃棄物削減

製品廃棄時の環境負荷を低減

製品ライフサイクルで最も多く廃棄物が発生するのは、ディーラーでの製品廃棄時です。そのためUDトラックスでは廃棄物管理体制を構築し、2014年から廃棄物分別管理に関する社内処理基準を全ディーラー拠点に導入しています。各拠点では、これに従って専用の設備を設置し、廃棄物を細かく分別しています。また、ディーラーへ発送するサービスパーツの梱包容器のリターナブル化を進め、各ディーラー拠点に再利用を促しています。

開発段階においては、3分割バンパーや、レンズとLEDユニットが単体交換可能な易解体性ヘッドランプ、リサイクル材使用フェンダーなど、解体のしやすさや資源の有効利用を考慮した設計を行っています。

生産段階では、廃棄物最終処分量の削減を目標に、廃棄物の発生抑制とリサイクルに取り組んでいます。2016年度においては、廃棄物最終処分量を1990年度比で

99.8%削減。また、リサイクル率も全社で99%以上(ゼロエミッション)を維持しています。

UDトラックスでは、こうした廃棄物管理体制の強化を目的に、2015年4月から廃棄物処理の専門会社とコンサルタント契約を締結しています。信頼性の高い処理会社の選定や行政への届出、帳票(マニフェスト)管理、処分量集計など、廃棄物管理に関わるコンプライアンスの徹底を図っています。

緑地の拡大

本社敷地内の建物跡地を緑地に再生

2015年に本社ビルが竣工したのに伴い、老朽化した建物を解体し、その跡地を緑地として再生しています。今後、順次解体を進め、緑地エリアもさらに拡大する計画です。

環境リスクの低減

工場周辺住民の生活環境に配慮

上尾工場では、2016年に敷地内にある車両のテストコース周囲のフェンスを更新しました。更新にあたっては、近隣住宅地への騒音低減と落ち葉の飛散の防止を考慮し、従来よりも高いフェンスを設置しました。

また、昨今のゲリラ豪雨対策として、工場の東側にある遊水地の改良工事を実施しました。これにより、貯水容量が約2倍に増え、洪水防止に効果を発揮しています。

Topic

「環境コミュニケーション 2016」を開催

2016年11月5日、UDトラックスは上尾工場の近隣地域の区長11名と上尾市役所環境経済部の方4名を招き、「環境コミュニケーション 2016」を開催しました。

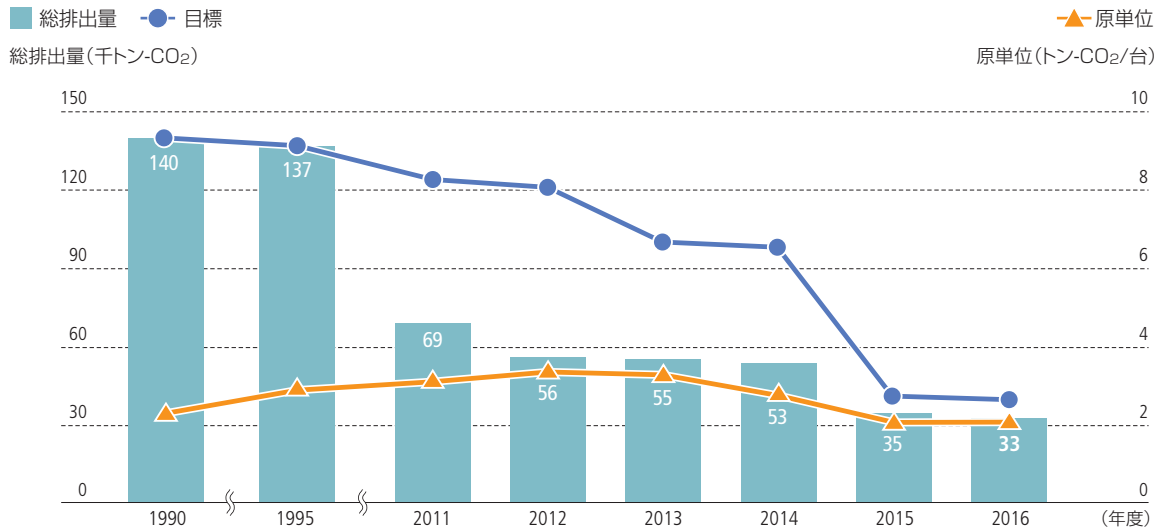
当日は、会社代表の挨拶とUDトラックスの歴史や現在の事業概要の紹介に続き、環境統括責任者から環境への取り組みや市民を対象とした社会貢献活動などを報告。その後、テストコースでの体験試乗や、展示ホールの見学を行い、意見交換の場も設けました。

出席された方々からは、「UDトラックスの会社の状況やさまざまな取り組みを知る良い機会になった」「UDトラックスが環境活動や地域活動に努力していることが理解できた」など好意的なご意見をいただくとともに、「今後ともこのような取り組みを継続・拡大し、地域ともっと良好な関係を築いて欲しい」との要望が寄せられました。

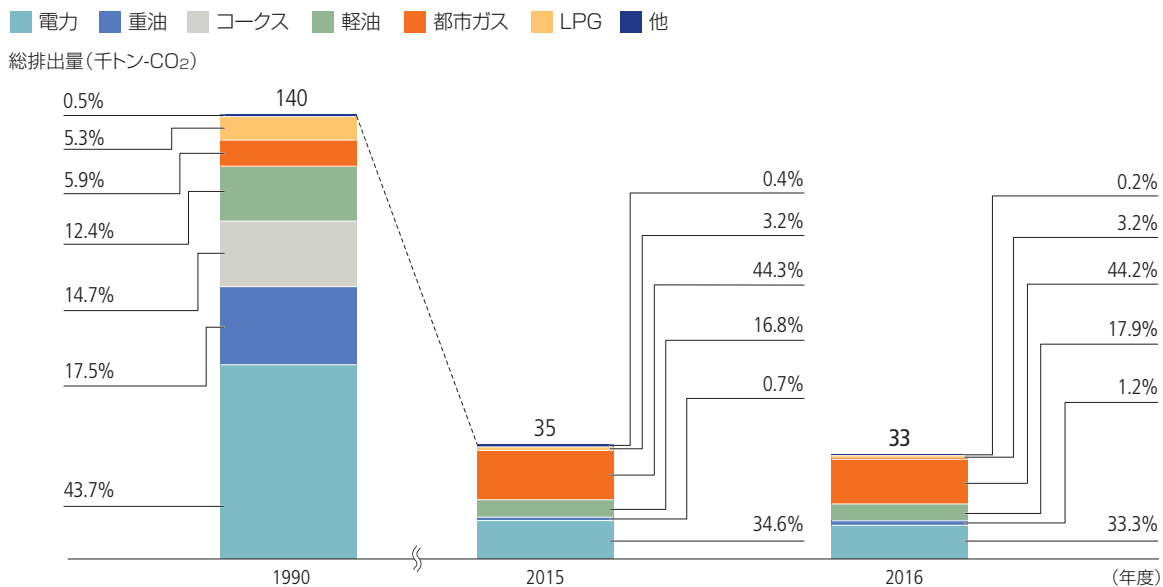


エネルギー／CO₂関連データ (上尾工場、羽生工場、群馬部品センター)

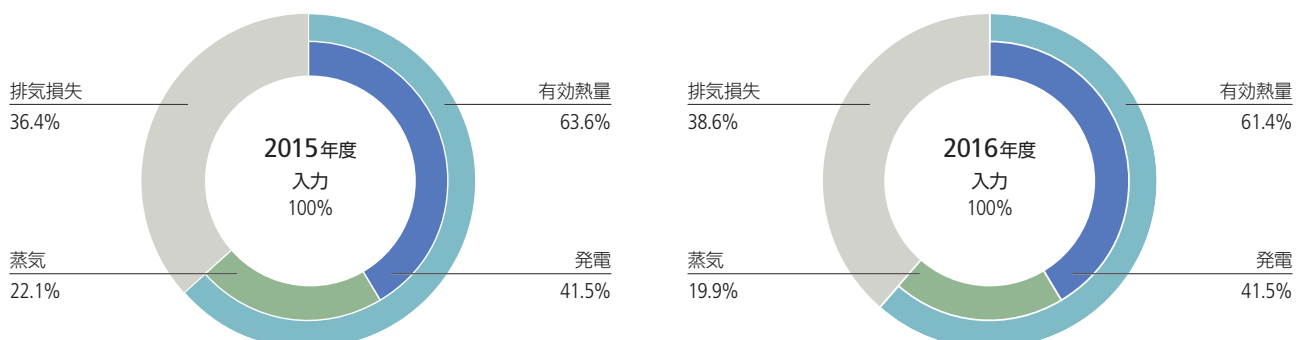
CO₂総排出量・原単位



エネルギー別CO₂排出量

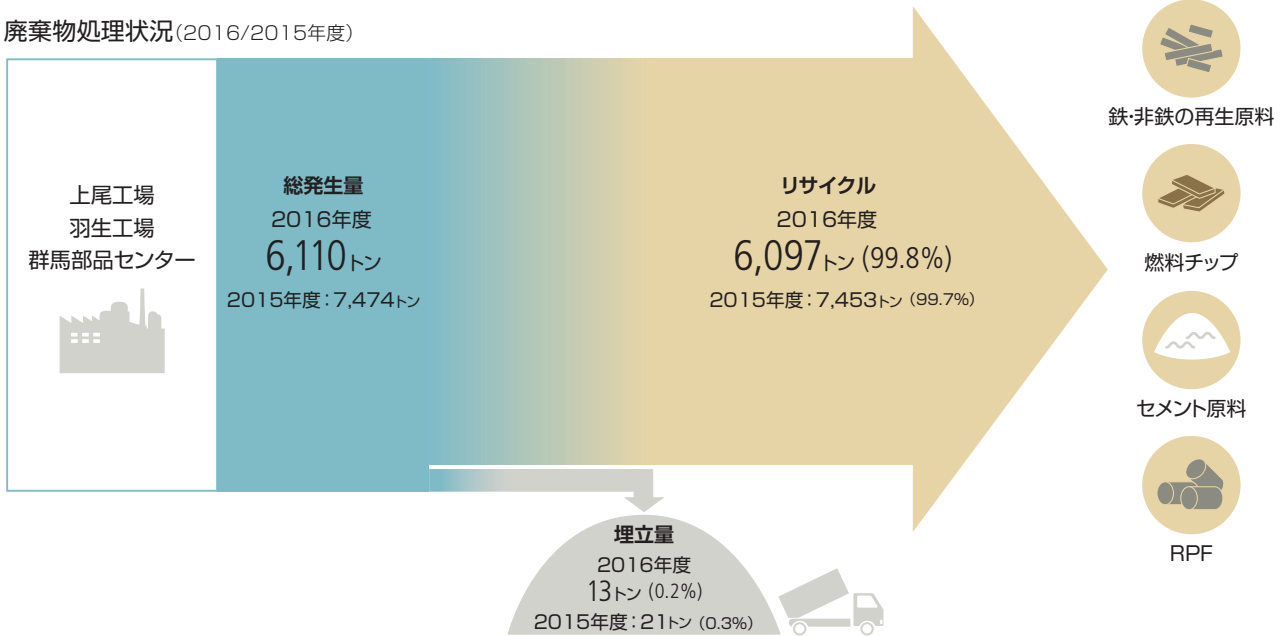


大型天然ガスコジェネレーションの熱収支

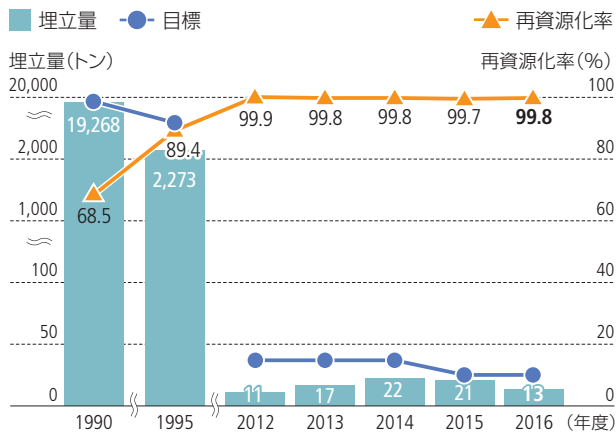


資源関連データ (上尾工場、羽生工場、群馬部品センター)

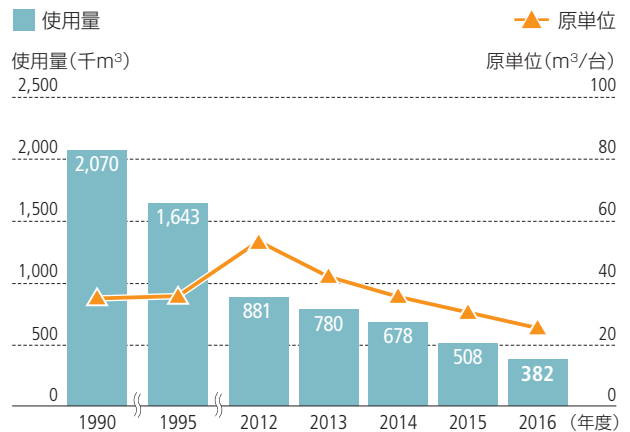
廃棄物処理状況(2016/2015年度)



廃棄物最終処分量(埋立量)／再資源化率



使用水量・原単位



※自工会廃棄物分科会の取り組みに準拠し、2004年度より目標値を見直しています。

PRTRデータ

上尾工場(2016年度)

単位:kg/年(ダイオキシン類はmg-TEQ/年)

区分	政令番号	化学物質名	取扱量	排出量			移動量 廃棄物	除去 処理量	リサイクル	消費量 (製品)
				大気	水域	土壌				
第一種指定 化学物質	1	亜鉛の水溶性化合物	1,065	0	11	0	0	309	0	746
	53	エチルベンゼン	23,502	10,907	0	0	0	2,389	10,080	126
	80	キシレン	42,695	15,887	0	0	0	2,605	23,519	683
	296	1,2,4-トリメチルベンゼン	2,900	1,378	0	0	0	660	0	863
	297	1,3,5-トリメチルベンゼン	5,104	596	0	0	0	53	4,293	161
	300	トルエン	9,571	6,562	0	0	0	1,699	186	1,124
	438	メチルナフタレン	519	9	0	0	0	0	0	510

環境施設の2016年度環境測定データ

(環境データ測定期間：2016年4月～2017年3月)

上尾工場

水質	測定項目	単位	規制値	最大	最小	平均
BOD:生物化学的酸素要求量 COD:化学的酸素要求量 SS:懸濁物質 ND:定量下限以下 規制値の()内は日間平均	排水量	m ³ /日	—	9,573	0	1,117
	pH	—	5.8～8.6	7.7	6.7	7.4
	BOD	mg/ℓ	25 (20)	3.3	1.1	2.2
	COD	mg/ℓ	160 (120)	8.8	3.4	5.4
	SS	mg/ℓ	60 (50)	ND	ND	ND
	N-Hex(鉱油)	mg/ℓ	5	ND	ND	ND
	リン	mg/ℓ	8	ND	ND	ND
	窒素	mg/ℓ	60	7.4	1.3	2.9
	亜鉛	mg/ℓ	2	ND	ND	ND
フッ素および化合物	mg/ℓ	8	ND	ND	ND	

大気	施設名	測定項目	単位	規制値	最大	最小	平均
NOx:窒素酸化物	温水ボイラー	NOx	ppm	150	56	46	51
	コージェネ(ガス機関)	NOx	ppm	200	110	100	105
	乾燥炉1	NOx	ppm	230	33	10	21.5
		ばいじん	g/m ³ N	0.2	ND	ND	ND

羽生工場

水質	測定項目	単位	規制値	最大	最小	平均
BOD:生物化学的酸素要求量 COD:化学的酸素要求量 SS:懸濁物質 ND:定量下限以下 規制値の()内は日間平均	排水量	m ³ /日	—	47	0	8
	pH	—	5.8～8.6	7.5	7.0	7.2
	BOD	mg/ℓ	25 (20)	2.1	2.0	2.1
	COD	mg/ℓ	160 (120)	3.0	1.2	2.0
	SS	mg/ℓ	60 (50)	ND	ND	ND
	N-Hex(鉱油)	mg/ℓ	5	ND	ND	ND
	窒素	mg/ℓ	60	20	3.5	12.9
	亜鉛	mg/ℓ	2	0.10	ND	ND

大気	施設名	測定項目	単位	規制値	最大	最小	平均
NOx:窒素酸化物	ボイラー重油 (1.2トン)	NOx	ppm	180	95	54	74
		SOx	m ³ N/h	0.493	0.008	0.002	0.004
		ばいじん	g/m ³ N	0.3	0.007	0.005	0.006
	冷温水機	NOx	ppm	180	86	54	70
		SOx	m ³ N/h	0.531	0.004	0.004	0.004
		ばいじん	g/m ³ N	0.3	0.005	0.004	0.005

群馬部品センター

水質	測定項目	単位	規制値	最大	最小	平均
BOD:生物化学的酸素要求量 SS:懸濁物質 ND:定量下限以下	排水量	m ³ /日	—	25	0	7.4
	pH	—	5.8~8.6	7.5	6.5	6.9
	BOD	mg/ℓ	80	6.2	2.2	4.6
	SS	mg/ℓ	20	6.0	1.0	2.8
	N-Hex(鉱油)	mg/ℓ	1	ND	ND	ND

大気	施設名	測定項目	単位	規制値	最大	最小	平均
NOx:窒素酸化物	ボイラー重油 No.1,2,3	NOx	ppm	180	74	62	68
		ばいじん	g/m ³ N	0.2	0.002	0.001	0.002

ISO14001 認証取得状況

1998年度	本社・上尾工場
2002年度	商品開発部門
2004年度	鴻巣工場 *2015年1月グローバル・コンポーネント・テクノロジー(株)に譲渡
2004年度	羽生工場 *2016年3月ユニキャリア(株)に譲渡
2005年度	株式会社DRD *2013年6月テンプスタッフ(株)に譲渡
2005年度	株式会社テクサス *2013年7月UDトラックス(株)に併合
2006年度	株式会社エヌテック *2015年3月(株)木原製作所に譲渡
2008年度	株式会社ジャパンビークル *2011年7月UDトラックス(株)に併合
2009年度	株式会社ボルボ・ロジスティクス・コーポレーション・ジャパン *2014年4月UDトラックス(株)に併合

PCB保管状況 (2016年度)

	上尾工場
リアクトル	1,000kg
放電線輪	40kg
コンデンサ	6,019kg
安定器	11,400kg
トランス	14,638kg
遮断器	220kg
汚染物(ウエス等)	10kg
合計	33,327kg

※「トランス」は、トランス本体の筐体重量を含めています。

ボルボ・グループについて

UDトラックが所属するボルボ・グループは、スウェーデン・ヨーテボリを本拠とし、商用車や建設機械、船舶・産業用エンジンの製造や金融サービスなど、さまざまなソリューションを提供するグローバルカンパニーです。世界18カ国に生産拠点を置き、約95,000名の従業員が、190以上のマーケットで事業を推進しています。

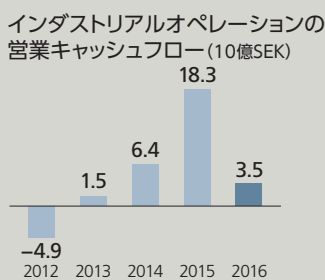
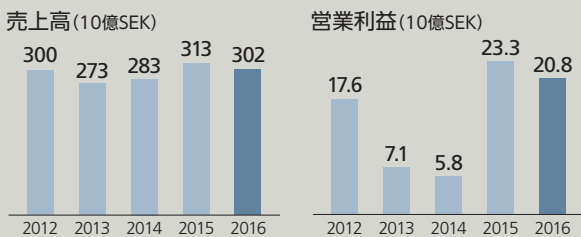
世界におけるポジション

ボルボ・グループの製品とサービスは、社会の機能性の向上に貢献しています。お客様の多くが輸送やインフラ産業に従事していることから、ボルボ・グループでは製品の信頼性と生産性を重視しています。そして、お客様のビジネスの成功に寄与する製品・サービスの提供に注力しています。競争力のある製品とサービスネットワーク、そして金融や

保険、リースなどの商品の拡大によって、ボルボ・グループは世界市場で先導的な地位を確立しています。2016年の販売台数において、大型トラックは2位、建設機械は3位、バスはターゲットとするセグメントと市場で2位、大型ディーゼルエンジンは2位、レジャーボート用ディーゼルエンジンは1位の位置につけています。



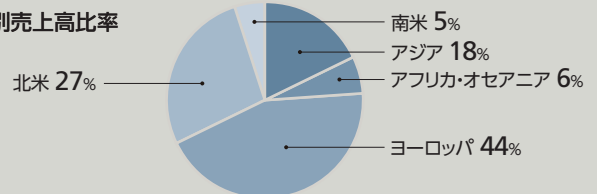
2016年の主要なパフォーマンス



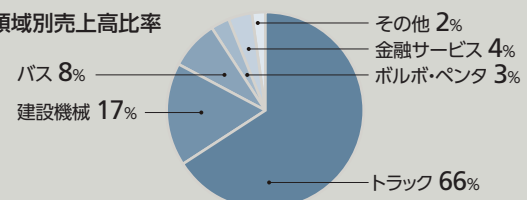
SEK:スウェーデン・クローナ

従業員エンゲージメント比率	女性従業員比率	CO ₂ 排出原単位	水使用原単位
72%	17%	1.4t/百万SEK	15.2m ³ /百万SEK

地域別売上高比率

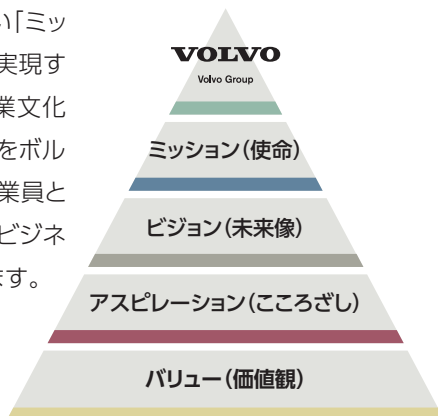


事業領域別売上高比率



企業戦略

2016年、ボルボ・グループは、グループの新しい「ミッション」、それを果たすための「ビジョン」、ビジョンを実現するための目標となる「アスピレーション」、そして企業文化を醸成するための「バリュー」を発表しました。これらをボルボ・グループがめざすべき方向性としてすべての従業員と共有し、あらゆる事業活動に反映しながら、さらなるビジネスの発展と持続可能な社会の実現に取り組んでいます。



- 輸送ソリューションを通じて豊かな社会づくりに貢献する
- 輸送ソリューションを提供する企業として世界一の評価を受け、成功を収める
- すべてのブランドのセグメントで顧客満足度トップを達成する
- 業界の中で働きたい企業ナンバーワンとなる
- 業界トップの収益性を確保する
- カスタマー・サクセス(お客様の成功)
- トラスト(信頼)
- パッション(情熱)
- チェンジ(変革)
- パフォーマンス(成果)

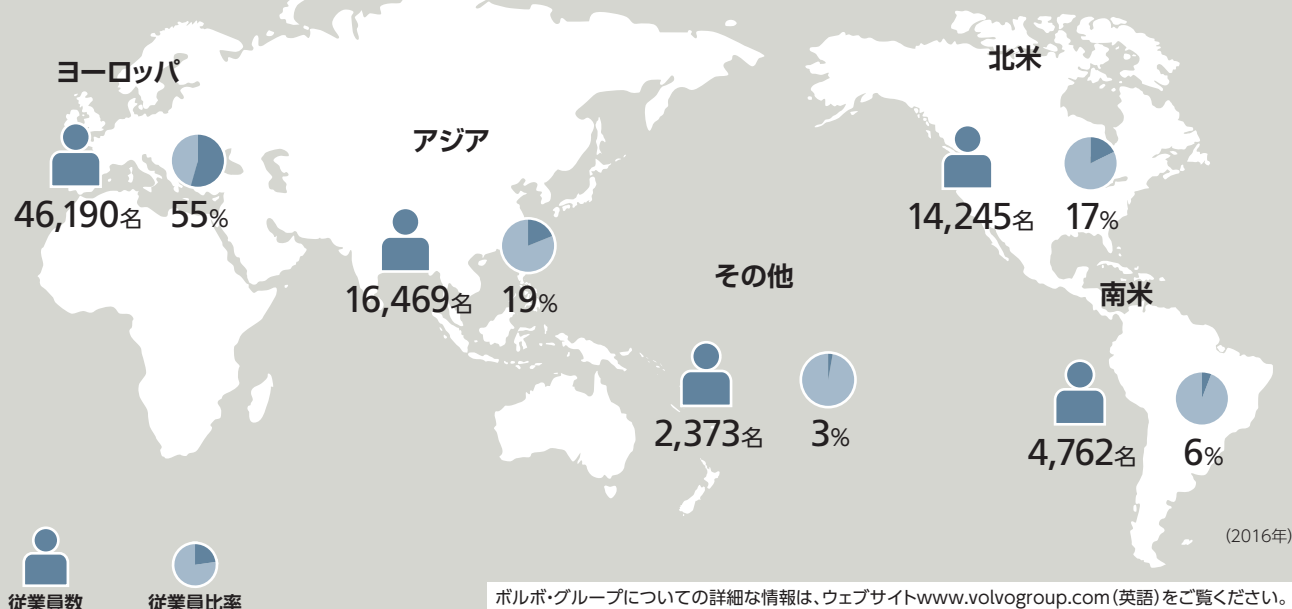
ブランド

ボルボ・グループは、傘下に、ボルボ(トラック、建設機械、バス)、ボルボ・ペンタ、UDトラックス、テレックス・トラック、ルノー・トラック、プレヴォ、ノババス、そしてマック・トラックといった複数のブランドを展開しています。また、SDLG、アイシャー、東風商用車会社とパートナーを組み合併事業を行っています。

製品とサービスをさまざまなブランドで提供することによって、成熟市場、新興市場を問わず、お客様の多様なニーズに応えています。



地域別従業員数



UDトラックス株式会社

〒362-8523 埼玉県上尾市大字菅丁目1番地
udtrucks.co.jp